

講義要綱(シラバス)

令和2年度

授 業 概 要

科目名	物理学	担当者	磯 博	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>医療においては科学的に物事を見て考えることが第一に要求されます。物理学は自然がどのような仕組みになっているかを解き明かすものであり、化学・生物学・医学など全ての化学の土台となる学問です。この科目では「科学的な考え方とは何か」を学ぶとともに、「医療の現場で物理学がどのように役立つか」を具体的な例を通して学習します。</p>						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的方法とは何かについて説明できるようになる。 ・日常生活における問題やさまざまな自然現象を、科学的な視点から考え、解決しようとする。 ・測定値を誤差を考慮して計算し、適切に書き表すことができるようになる。 ・物理学の基本的な原理を応用して、看護の現場で活用できるようになる。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1・2回：科学への誘い	<ul style="list-style-type: none"> ・天文学入門、古代人の宇宙観、近代科学の目覚め 					講義
	第3・4・5回：科学的方法	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的方法とは、科学と非科学、科学的検証の方法 					講義
	第6・7回：測定と単位	<ul style="list-style-type: none"> ・物理量と基本単位、誘導単位、測定誤差 					講義
	第8・9回：	<ul style="list-style-type: none"> ・中間試験 ・現代の自然観(ミクロの世界、マクロの世界) 					テスト(形成的評価) 講義
	第10～14回：看護における物理学	<ul style="list-style-type: none"> ・重いものを持つにはどうしたらよいか ・身近な圧力 ・循環器の物理(血圧の話) ・感覚器の物理 ・放射線の利用と身体への影響 					講義、小テスト(形成的評価)
	第15回：期末試験						テスト(単位認定評価)
成 績 評 価	・方法	レポート課題と期末試験で総合的に評価します。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	科学的な考え方を身につけるには、常識と思われていることに疑問を持ち、物事をより深い立場から考える訓練が必要です。この授業をきっかけに、身の回りのいろいろな事柄について一から考え直してみてください。また、テキストや参考文献を読んでみて、分からないところを積極的に質問して下さい。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	「自然科学の考え方」、「看護に役立つ物理」					磯博 著
	・必要物品	特になし					
参 考 文 献	<p>「看護学生のための物理学」 佐藤和良著、医学書院 「シップマン自然科学入門・新物理学」 J.T.Shipman著、学術図書出版</p>						

授 業 概 要

科目名	生物学	担当者	森 誠	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>生物学は、これから勉強する専門分野・専門基礎分野のすべての科目を学習するために共通する基礎科学です。</p> <p>中学・高校レベルの理科の知識を発展させて、生命現象の本質やしくみについて学び、生物としての人間を理解できるように細目毎に学修します。</p>						
到 達 目 標	<p>生物に備わった、生命を維持・継承するための巧妙なシステムの面白さを理解すると同時に、生命現象の原理原則を理解し、病気や怪我が原理原則の例外としての病気や怪我を把握する。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回： 生命体のつくりとはたらき：(1-B)細胞とその構造、(1-D)細胞膜の輸送						
	第2回： 生命体のつくりとはたらき：(1-C)細胞の化学成分						
	第3回： 生体維持のエネルギー：(2-A)生体内の化学反応						
	第4回： 生体維持のエネルギー：(2-B) ATPの生合成						
	第5回： 細胞の増殖とからだのなりたち：(3-A)細胞分裂						
	第6回： 遺伝情報とその伝達：(4-B)遺伝情報の担い手、(4-C)DNAの複製						
	第7回： 遺伝情報の発現のしくみ：(4-D)遺伝情報の伝達、(4-E)タンパク質の合成						
	第8回： 遺伝情報の発現のしくみ：(4-G)変異、(4-H)ヒトの遺伝						
	第9回： 生殖と発生：(5-B)動物の受精と発生						
	第10回： 生殖と発生：(5-C)哺乳類の発生						
	第11回： 個体の調節：(6-B-3)循環系、(6-B-4)免疫系						
	第12回： 刺激の受容：(7-A)神経における情報処理の特徴、(7-C)神経系の情報伝達						
	第13回： 個体の調節：(6-C)神経性相関、(6-D)液性相関						
	第14回： 刺激の受容と行動：(7-B)環境の情報とその受容、(7-E)効果器のはたらき						
	第15回： 筆記試験						
成 績 評 価	・方法	出席状況と受講態度、および筆記試験					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	特に指定しない。					
	・留意点	授業は概ね教科書に沿って重要な部分を中心に解説するので、全体を把握するためにテーマとなる項目をあらかじめ予習しておくこと。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 基礎分野 生物学					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献	<p>森誠著『カラー図解生化学ノート - 書く！塗る！わかる』講談社、2014年、ISBN978-4-06-153887-0、2200円</p> <p>江原宏・森誠編著『ライフサイエンスのための生物学』培風館、2015年、ISBN978-4-563-07815-7、3900円</p>						

授 業 概 要

科目名	英 語	担当者	ひとこと 一言 哲也	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位	
学 修 内 容	初めて看護学を学ぶ学生が、看護英語の基礎を楽しく実践的に身につける。このために必要な基礎的な医療に関する語彙も学習する。授業では、ビデオやCDを使って音声面での訓練を行い、受講者の積極的な参加を求める。文法よりは、発音や読むことに重点を置いた授業を行う。							
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が患者と関わる場面を想定して、英語で基礎的なコミュニケーションが出来るようになる。 2. 英語音声の基礎をきちんと認識し、英文の内容に応じた読み方が出来るようになる。 3. 看護の場面に必要な基礎的英語の語彙をしっかり覚える。 							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回	英語と日本語の音声比較(基本的な音の違いについて)						板書による解説
	第2回	Hospital Admission ① (これから入院する患者への対応場面)						教科者の解説・本文読み練習
	第3回	Hospital Admission ② (これから入院する患者への対応場面)						本課の続き・復習の「小テスト」
	第4回	The Nurse's Role ① (看護師の役割を伝える場面)						教科者の解説・本文読み練習
	第5回	The Nurse's Role ② (看護師の役割を伝える場面)						本課の続き・復習の「小テスト」
	第6回	Life in the Hospital ① (患者から生活習慣の情報を収集する場面)						教科者の解説・本文読み練習
	第7回	Life in the Hospital ② (患者から生活習慣の情報を収集する場面)						本課の続き・復習の「小テスト」
	第8回	Taking Vital Signs1 ① (生命徴候を測定する場面1－体温・脈拍・呼吸)						教科者の解説・本文読み練習
	第9回	Taking Vital Signs1 ② (生命徴候を測定する場面1－体温・脈拍・呼吸)						本課の続き・復習の「小テスト」
	第10回	Taking Vital Signs2 ① (生命徴候を測定する場面2－血圧)						教科者の解説・本文読み練習
	第11回	Taking Vital Signs2 ② (生命徴候を測定する場面2－血圧)						本課の続き・復習の「小テスト」
	第12回	Providing Meal Assistance ① (食事介助・治療食の説明をする場面)						教科者の解説・本文読み練習
	第13回	Providing Meal Assistance ② (食事介助・治療食の説明をする場面)						本課の続き・復習の「小テスト」
	第14回	総合的な復習と期末試験の準備						期末試験範囲の総復習
	第15回	期末試験 (および試験の解説など)						筆記試験
成 績 評 価	・方法	期末試験(筆記) 60%、復習の「小テスト」(＝単語テストおよび読みテスト) 40%						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	毎回の授業では、発音やペア練習があるので、積極的な参加を求める。授業に際しては、新しい単語や表現の意味は授業の中で開設するので、 <u>予習よりも復習に重点をおいて</u> もらいたい。前回の授業範囲から、基本的にほぼ毎回「単語小テスト」または「読み小テスト」を行う。						
	・留意点	間違いを恐れず、楽しく元気に話そうとする態度を評価する。成績は、上記の通り、期末試験と小テスト(単語と読み)を主に判定する。(なお、出席状況や受講態度なども参考にする。)						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	〈書名〉 Health Talk (English for Hands-on Nursing) 〈著者〉 P.Uchida、山本淳子、渡邊容子 〈発行〉 ピアソン エデュケーション						
	・必要物品	特になし						
参 考 文 献								

授 業 概 要

科目名	表現法	担当者	竹腰 幸夫	年次	1	単位 時間	30時間 /1単位
学修内容	<p>「表現法」とは、日本語の言語表現法(コミュニケーション)のことです。 「看護」の目的を考えればすぐにわかるように、まず患者さんとその家族、医者、先輩・同僚看護師、医療・医薬専門家、その補助者、介護関係者、病院事務関係者等、色んな領域の方々と円滑なコミュニケーションなしにはその目的は達成できません。ぜひともその力を研ぐための考え方・方法を身に付けておきたいところです。そこで、主に次の3点を学びます。</p> <p>①看護における「言語」「言語表現」とは何なのか。 ②「日本語」表現の特性・特質とその理解。 ③「コミュニケーション」の意味と実際。</p>						
到達目標	<p>上記①～③の理解。 本講座の目的は、知識の修得ではありません。「表現」に関する根本的な考え方(哲学)の理解にあります。</p>						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
第1回	医療と看護の論理…「表現法」の出発点・文字の表す癒しの世界						<p>いずれも講義形式及び「成績評価」の方法による小レポート(レスポンスシート)による質疑応答。</p>
第2回	看護のポジション…看護の視点・マザーテレサの思想から						
第3回	言葉の力(1)その発生…聖書「太初めに言葉ありき」・ナイチンゲールの方法						
第4回	言葉の力(2)その認識…仏陀「四苦八苦」の人間認識						
第5回	言葉の力(3)その様相…科学「人文科学」の考え方						
第6回	言葉の力(4)その生命…言葉の奥行・二面性(普遍性・特殊性)						
第7回	芸術としての言語世界…ホモ・ルーデンスの言葉世界						
第8回	日本語の特質(1)その優しさ……「いろはうた」						
第9回	日本語の特質(2)その奥深さ……「愛」と「哀」						
第10回	日本語の特質(3)その柔かさ……「以心伝心」						
第11回	日本語の特質(4)その豊かさ……「敬語」と「敬意」						
第12回	日本語の特質(5)その実践へ……小テスト						
第13回	メモの重要性…理解と誤解・おもいやり						
第14回	よりよいコミュニケーションのために・ラブレターの書き方						
第15回	高い理想と笑顔の人生のために・「感情労働」を克服する						
成績評価	<p>・方法 毎時300字程度の小レポートを書いていただきます。①授業内容のまとめ、②意見、③疑問、④感想をその内容としますが、それは自ずから「文章表現」の鍛錬の場ともなります。そのレポートは毎回、評価・添削し、返却します。その集積の評価(80%)と、小テスト2～3回(20%)実施の合計で単位評価します。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 携帯電話等の使用は辞書機能等の利用を含めて一切禁止です。ご協力お願いします。この約束が満たされない場合、直ちにレッドカードです。また、定期テスト時には、授業(評価)調査・アンケートを実施します。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 新版 日本語・理解と表現 いろは出版</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献	<p>その都度案内します。</p>						

授 業 概 要

科目名	情報科学	担当者	大和田 志保	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>スマホやタブレットPCの普及によりパソコン操作に苦手意識をもつ若い世代が増えてきています。実際の職場では様々なバージョンのパソコンやタブレットがあふれており、どの機器も問題なく使えるようにならなければなりません。この授業では、インターネット上における個人情報の取り扱いから、MicrosoftのWordとExcel操作を通じて近い将来使うであろう電子カルテの操作に親しみをもってもらうことを目的とします。</p>						
到 達 目 標	<p>ネット上での個人情報の取り扱い、WindowsOS上でのネットワークの概念及びWordとExcelの応用操作までできることを目標とします。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 インターネット上における個人情報の取り扱い						討論形式(座学)
	第2回 Windowsネットワーク及びExcel基本操作						実技
	第3回 Word 図形でポスター作成						実技
	第4回 Word 図形で地図作成						実技
	第5回 Word 図形と文章						実技
	第6回 Word 見積書作成から学ぶ表作成						実技
	第7回 Word 差込印刷、その他よく使われている操作						実技
	第8回 Excel ホーム操作一式、四則演算、関数						実技
	第9回 Excel 関数を使った書式						実技
	第10回 Excel データベース						実技
	第11回 Excel ピボットテーブル						実技
	第12回 Excel ピボットテーブル、グラフ作成						実技
	第13回 Excelの図表を材料にWordで報告書作成						実技
	第14回 Excelの図表を材料にWordで報告書作成						実技
	第15回 実技試験(Excel、Word)						実技試験
成 績 評 価	<p>・方法 課題及び実技試験結果</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 実技故、各人の能力差がかなりある授業です。得意な人は不得意な人に教えるなど協力し合ってください。不得意と感じる学生は授業の時だけPCにさわるのではなく、日常でもPCを使う・練習するようにするなど努力が必要です。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト よくわかるMicrosoft Excel 2016応用 FOM出版 よくわかるMicrosoft Word 2016応用 FOM出版</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	論理的思考	担当者	小野田 貴夫	年次	1	単 位 時 間	20時間 ／1単位
学 修 内 容	カンファレンス等、グループやチームで議論を進めていく時に、参加者が納得できる筋道の通った問題の立て方と結論の出し方が必要になる。そのための論理的な思考の枠組みを理解し、実際に使えるようになることを目指す。						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な思考の基本的な枠組みが理解でき、その必要性を説明できる。 ・現実的な場面で、論理的なコミュニケーションができる。 ・現実的な問題に、論理的な解決方法を使うことができる。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第 1回： 論理的な思考の基本的な枠組みについて						ミニレポートの作成
	第 2回： 論理的なコミュニケーションの基本について						ミニレポートの作成
	第 3回： 問題の設定の仕方						グループワークによるミニレポートの作成と発表
	第 4回： 理由と結論の組み合わせについて 帰納法と演繹法						グループワークによるミニレポートの作成と発表
	第 5回： ブレインストーミングの方法(K.J.法とマインドマップについて)						ミニレポートの作成
	第 6回： 論理的問題解決の基本について						グループワークによるミニレポートの作成と発表
	第 7回： 問題の設定の仕方(問題の抽出方法)						グループワークによるミニレポートの作成と発表
	第 8回： 問題と原因の関係について						グループワークによるミニレポートの作成と発表
	第 9回： 解決方法の求め方						グループワークによるミニレポートの作成と発表
	第10回： まとめ						筆記試験
成 績 評 価	・方法	筆記試験50%、課題提出・小レポート30%、授業態度20%					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	その都度、資料を配布する。					
	・留意点	グループワークを実施する時は積極的に参加すること。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	その都度、資料を配布する。					
	・必要物品	濃いめ鉛筆(B2～B4)、色鉛筆(数種類の基本色)、蛍光ペン					
参 考 文 献	<p>「ロンリ」の授業:あの人の話はなぜ、わかりやすいんだろう? NHK「ロンリのちから」制作班(著)、野矢茂樹(監修)</p>						

授 業 概 要

科目名	総合人間学	担当者	百合草 禎二 田中 悦子	年次	1	単 位 時 間	20時間 ／1単位	
学 修 内 容	看護を必要とする人々は人間である。その人間について、様々な視点から概観することは、人間の理解を広く深くすることにつながる。そして、それが看護を必要とする人々のすべての営みを総合的にとらえる視点に変換され、目指す看護に奥行きをもたらしてくれると考える。「総合人間学」は、入学後間もない時期に人間についての総合的な学習をする科目である。講義を通して、受講者の人間観の変化を期待するものである。							
到 達 目 標	1. 看護を必要とする人々を広く深く知ることの必要性を認識する。 2. 様々な視点からの人間観を学び、人間への理解を深める。 ①人間存在の意義 ②死ぬ存在としての人間 ③行動する人間 ④生活者としての人間 ⑤ケアする人間 ⑥生きがいをもつ人間 ⑦身体をもつ人間 ※「成長発達する人間」「心をもつ人間」は、他の講師が担当する 3. 自らの人間観を広めかつ深める機会を通し、自分自身を見つめる機会とする。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回－ 講義概要、あなたの考える人間とは						本講は、プロジェクト学習の一部を取り入れ、自分の目標を提示し、講義資料等は、ポートフォリオに綴っていただきます。 講義ごとに感想を提出します。感想、講義への参加度を評価として採用します。 ※詳細は初回ガイダンスで説明	
	第2回－ <生きがいをもつ存在>としての人間							
	第3回－ <身体をもつ存在>としての人間							
	第4回－ <こころを持つ存在>としての人間							
	第5回－ <いつか死をむかえる存在>としての人間							
	第6回－ <成長発達する存在>としての人間							
	第7回－ <行動する存在>としての人間							
	第8回－ <生活する存在>としての人間							
	第9回－ <ケアする存在>としての人間							
	第10回－ 統合体としての人間							
	※ 第4回・第6回の講義は、百合草講師が担当							
成 績 評 価	・方法	レポート、授業への参加度						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	事前課題を提示することが多々あります。1回目以降に随時提示いたします。						
	・留意点	本講義は、様々な切り口から人間を探求します。人間探求の旅は、自分自身を知ることでもあり、大変興味深くかつスリルに満ちた旅です。つまり、皆さん自らの体験を振り返り、それを教材にして考えることを取り入れていきます。そこから人間を探求してほしいと考えています。実は、人間の本質を知らずし奥深い看護はできないのです。本講義は2人の講師による共同作業で進めていくこととなります。それぞれの講義からの人間理解の視点を統合し、最終的には看護に生かしていく皆さんの力に期待します。（田中） 授業とは、一方的な知識の伝達ではありません。教員と学生との対話をとおしての理解(意味)の生成の場であると考えています。従って、皆さんとともに授業を構築していけたらいいなと思います。（百合草）						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	特に指定しない。						
	・必要物品	特になし						
参 考 文 献	① 小田正枝、園山繁樹編集、『総合人間学概論』、ヌーベルヒロカワ、2010.1.1 ② 神谷美恵子、『生きがいについて』 みすず書房 ③ ミルトン・メイヤロフ、『ケアの本質-生きることの意味-』、ゆみる出版、1993 ④ 浜渦辰二編集、『ケアの人間学入門』、知泉書館、2005.11 ⑤ 小林直樹編、『総合人間学の試み～新しい人間学に向けて～』、学文社、2006 ⑥ 日本医学教育学会編、『人間学入門～医療のプロをめざすあなたに～』、南山堂、2009 ⑦ 日野原重明、『いのちの使い方』、小学館、2012.10							

授 業 概 要

科目名	保健体育	担当者	鉄 多加志	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>基本的に道具を使わずに行える運動を中心に、自分自身の身体能力の向上を図ります。ここでは、時間や場所を限定しない簡易的な運動によって柔軟性や体幹を養います。</p>						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性と体幹の向上 ・自己データの評価 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第 1回	自分自身のデータを知る。	（座学）	自分自身に興味を持つ			
	第 2回	チームビルドゲーム(マシュマロプロジェクト)	（座学）	グループの必要性和リーダーシップ			
	第 3回	ストレッチ1		スタティックストレッチ			
	第 4回	ストレッチ2		スタティック・ダイナミックストレッチ			
	第 5回	バランストレーニング		体幹の向上			
	第 6回	呼吸法		肺式・複式・ウォームアップ呼吸			
	第 7回	自重負荷トレーニング		腕立て、スクワット			
	第 8回	エアロビクス運動		ウォーキング、ジョギング			
	第 9回	応急手当	（座学）	市民救急を知る			
	第10回	エアロビクス運動2		ウォーキング、ジョギング等			
	第11回	自重負荷トレーニング2		腕立て、スクワット、逆立ち			
	第12回	呼吸法2		ハイパーベンチレーション			
	第13回	バランストレーニング2		体幹の向上			
	第14回	ストレッチ3		柔軟性の向上			
	第15回	総括	（座学）	振り返り、レポート			
成 績 評 価	・方法	出席点(60%)及び実習態度(40%)の割合で評価します。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト						
	・必要物品	座学は筆記用具。それ以外では運動のできる服装、体育館シューズ、タオル、水筒					
参 考 文 献	健康・フィットネスと生涯スポーツ	大修館書店					

授 業 概 要

科目名	コミュニケーション論	担当者	上藤 美紀代	年次	1	単 位 時 間	15時間 ／1単位	
学 修 内 容	人間関係というものは、私たちの生活には不可欠なごく日常的な現象であるが、よりよい人間関係を築いていくために、特に医療者としては、コミュニケーションスキルは非常に重要な技術となる。人間関係を築くうえで必要な知識や技術、心構え(思いやり)を、主に話し方(声の出し方や遣い方)と聴き方の演習を通して習得する。「コミュニケーション」とは何かも考えていきたい。							
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係を築いていくために必要な知識や技術、心構えを身に付ける。 ・コミュニケーション能力を向上させ、人との関わりに自信を持つ。 ・医療者(対人援助職)として、「人間関係」について考察し、実践していく力を養う。 							
授 業 計 画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)	
	第1回	オリエンテーション(ヴォイスセラピーについて。コミュニケーションにおける「声」の重要性)					基本的呼吸法、発声法、滑舌訓練を行う。	
	第2回	自分と向き合う(声を出して自分を知る)。					「寿限無」をテキストに読み方(表現の仕方)を通して自己分析を行う。	
	第3回	コミュニケーション・スキルの基礎 話すときく					3人で1グループをつくり、お互いの話し方、聞き方を観察する=自分の話し方、聞き方を知る。	
	第4回	コミュニケーション・スキルの基礎 観る					3人で1グループをつくり、二人の対話を観察する。この観察を通して自分の観る力を知る。	
	第5回	インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影)					出席番号順に全員がインタビューとインタビューを受ける立場を体験する。この体験を通して自分の良いところを知り、自信につなげると同時に、クラスメイトの良いところを見出し、気づきや学びを得る。	
	第6回	インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影)						
	第7回	インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影)						
	第8回	インタビュー体験の振り返り・まとめ及び補足					ビデオを見て、自分の表情や姿勢、しぐさなどを反省し、(コミュニケーション)スキル向上のための課題を見つける。	
成 績 評 価	・方法	筆記試験、課題レポート、授業時のミニレポート、取り組み姿勢、出席状況						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題							
	・留意点	各回の授業を通し、人間関係を築いていくうえでの自身の課題が見つかると思うが、日常生活や社会生活の中で、その課題の解決あるいは克服する努力を自主的に続けていってほしい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	授業時にプリントを配布。						
	・必要物品	筆記用具。						
参 考 文 献	『人間関係づくりトレーニング』 星野 欣生 著 金子書房 『ケア・コミュニケーション Care Communication』 麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 編著 荒木登茂子 監修 株式会社 ウィネット							

授 業 概 要

科目名	社会学	担当者	齋藤 真智子	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>①現代社会で起きていることを社会的に理解できるよう、理論的視点を養う。ニュースを見て、その背景がわかるような授業を目指す。</p> <p>②「近代」をキーワードに、個人、人間関係、家族、集団、国家、グローバリゼーションという各レベルを分析する思考力を養う。</p>						
到 達 目 標	<p>社会的な視点での人間理解の基礎的能力を養う。特に家族関係、集団力学、ジェンダーの問題等の切り口から、社会的な存在である人間についての理解を深める。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：講義	「近代」とはどういう時代か					
	第2回：講義	日本の近代化					
	第3回：講義	自我論					
	第4回：講義	社会的相互行為					
	第5回：講義	近代家族の成立①					
	第6回：講義	近代家族の成立②					
	第7回：講義	ジェンダー論					
	第8回：講義	少子高齢化社会					
	第9回：講義	介護と育児					
	第10回：講義	家族とライフコース					
	第11回：講義	集団					
	第12回：講義	国家					
	第13回：講義	グローバリゼーション					
	第14回：講義	まとめ					
	第15回：試験	筆記試験					
成 績 評 価	・方法	筆記試験					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	テキストを使用するが、毎回レジュメを配布する。テキスト内容以外の物も扱う。レジュメ主体となるので、授業に集中し、レジュメを忘れないこと。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	ナーシング・グラフィカ 「健康支援と社会保障 ① 健康と社会・生活」			メディカ出版		
	・必要物品	授業に際し、配布したレジュメを忘れないこと。					
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	教育学	担当者	中村 美智太郎	年次	2	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>今日の教育問題を題材として、教育学の基本原則について、歴史と思想のふたつの視点から学ぶ。そもそも人間とはどのような存在かという問いから出発し、発達・教育・学校・学力等といった教育学の基本的な考え方について理解を深めながら、教育学の知見に基づいて考察する。</p> <p>毎回PowerPointによるスライドを使用する。授業内で質問をする時間も設け、自由な質問・議論を促す。授業は講義形式によって理解を深め、それに基づいた小課題に取り組む時間を設け、グループディスカッション等の議論の時間を活用する。いずれも、主体的な参加を期待する。</p>						
到 達 目 標	<p>受講者が、私たちの社会における子どもやおとなをめぐる多様な教育的環境について、その起源を探りながら理解を深め、人間を対象とする職業に従事する者として必要な基礎的知識の獲得と基本的資質の形成を行うことができること。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 人間形成と教育の意味 ① 動物と人間						講義、小課題、議論への参加貢献
	第2回 人間形成と教育の意味 ② 「発達」とは何か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第3回 人間形成と教育の意味 ③ 「教育」とは何か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第4回 人間形成と教育の意味 ④ 「発達」概念の再検討						講義、小課題、議論への参加貢献
	第5回 人間形成と教育の意味 ⑤ 教育の逆機能						講義、小課題、議論への参加貢献
	第6回 教育の目的・理念 ① 教育目的とは何か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第7回 教育の目的・理念 ② 「よい」教育目的, 中間課題						中間課、解説講義、議論への参加貢献
	第8回 教育の目的・理念 ③ 「学力」とは何か						講義、小課題、議論への参加貢献
	第9回 教育の目的・理念 ④ 「学力」を高める学習デザイン						講義、小課題、議論への参加貢献
	第10回 教育の目的・理念 ⑤ 学びの動機づけとディスカッションの方法						講義、小課題、議論への参加貢献
	第11回 教育思想の展開 ① 古代から近代へ						講義、小課題、議論への参加貢献
	第12回 教育思想の展開 ② 近代から現代へ						講義、小課題、議論への参加貢献
	第13回 現代社会と教育の問題 ① 教員の現状と国際比較						講義、小課題、議論への参加貢献
	第14回 現代社会と教育の問題 ② 新しい教育方法の可能性						講義、小課題、議論への参加貢献
	第15回 教育学の展望と課題, まとめ課題						まとめ課題と解説講義、議論への参加貢献
成 績 評 価	・方法	「筆記試験」と「毎回の講義への参加貢献」によって評価する。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	配布資料を活用して、復習と予習を行い、理解を深めること。					
	・留意点	既存の知識を単に暗記するのではなく、教育をめぐる問題について自ら認識を深め、判断し、他者の意見を尊重しながら自らの意見を持つことができるようになるよう、積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	特に指定しない。講義時にプリントを配布する。					
	・必要物品	特に指定しない。					
参 考 文 献	特に指定しないが、授業の中で適宜紹介する。						

授 業 概 要

科目名	人間関係論	担当者	百合草 禎二	年次	2	単 位 時 間	10/30時間 ／1単位
学 修 内 容	関係的存在としての人間について考察し、人間のWell-beingを考える上での人間関係の重要性(アタッチメントや基本的信頼の意義)を明らかにする。またよりよき人間関係を構築する上での自己理解やコミュニケーションの在り方などを学ぶ。さらに、特に看護における人間関係論、つまり援助的人間関係論をトラベルビーやペプロウの見解を通して、その在り方を深める。						
到 達 目 標	①人間の存在そのものが他者との関係の中で成立していることを知る。 ②自己理解を深める。 ③人間についての根源的な問いを立てることの重要性を理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	人間関係論入門	関係存在としての人間の成り立ち	講義、視聴覚教材の利用			
	第2回	人間関係論の基礎	理論の成立の歴史	講義、視聴覚教材の利用			
	第3回	人間関係における自己分析	(交流分析入門)	講義、視聴覚教材の利用			
	第4回	Humanitude	から考える人間関係論	講義、視聴覚教材の利用			
	第5回	援助的人間関係論の理解	—トラベルビーやペプロウの見解を通しての考察	講義、視聴覚教材の利用			
成 績 評 価	・方法	レポートの評価による。					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院					
	・必要物品						
参 考 文 献	講義の中で適宜紹介する。						

授 業 概 要

科目名	人間関係論	担当者	久保田 智之	年次	2	単位 時間	20/30時間 ／1単位
学修内容	円滑かつ快適な人間関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。講義において、よりよい人間関係を築くために有益な理論や学ぶ、また、体験ワークを通して、自らのコミュニケーションのパターンや癖などに気づき、内省を深めていく。						
到達目標	「患者－医療職者」、「医療職者－医療職者」の関係性において、円滑かつ快適な人間関係を構築するために必要なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第6・7回	コミュニケーションの仕組み		講義・体験ワーク			
	第8・9回	印象形成の理論と活用		講義・体験ワーク			
	第10・11回	傾聴スキル、アサーション、 ノンヴァーバルコミュニケーションの活用		講義・体験ワーク			
	第12・13回	組織内で求められる協働力		講義・体験ワーク			
	第14・15回	組織内で求められる共感力、感情コミュニケーション		講義・体験ワーク			
成績評価	・方法 リポートの評価による。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 特に指定しない。 ・留意点 授業中に体験ワークがあります。実際に頭と身体を使って、体験することで学んでいきます。一歩引いた態度でなく、まずやってみる姿勢でのぞんでください。真剣にチャレンジした分だけ、自分自身の理解が深まり、現場で活用できる知恵を得ることができます。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 ・必要物品						
参考文献	講師より適宜用意する。						

授 業 概 要

科 目 名	生命倫理学	担 当 者	松田 純 村松 岳詩	年 次	3	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>①生命倫理学(バイオエシックス)は米国で1960年代以降に誕生した新しい学問です。脳死者からの臓器移植や、生殖補助医療や出生前診断など、医療技術が進歩したがゆえに生じる倫理問題を扱います。「人間としていかに生きるべきか」という一般道徳も前提になりますが、医療者としてどう行動すべきかという職業倫理が中心になります。</p> <p>②先端医療が提起するさまざまな倫理問題を考えるとともに、看護師が臨床現場で出会うモラルディレンマをケースに即して検討します。</p>						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療分野と密接に関わる生命倫理学の概念と原則が理解できるようになる。 ・先端医療が提起する諸問題について、他者と論理的に議論しながら理解、表現する力を身につける。 ・臨床現場で出会うモラルディレンマを認識し、適切に判断し、行動する能力を養う。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 生命倫理学とは何か? その成立と発展						グループ・ディスカッション
	第2回 生命倫理学の原則と看護倫理						スモール・プレゼンテーション
	第3回 新しい健康概念と21世紀型医療の目標						レポート(各回)
	第4回 人生の最終段階の医療と意思決定						
	第5回 遺伝医療と倫理・法・社会						
	第6回 パーソナルゲノム時代の医療と倫理						
	第7回 脳神経科学と生命倫理(1)						
	第8回 脳神経科学と生命倫理(2)						
	第9回 出生前診断と生命倫理						
	第10回 生殖補助医療と生命倫理						
	第11回 再生医療研究と生命倫理						
	第12回 エンハンスメントと願望実現医療						
	第13回 医療資源の配分と倫理(1)						
	第14回 医療資源の配分と倫理(2)						
	第15回 まとめ 試験						倫理的諸問題に関する論述試験
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験及びレポート評価</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 臨床現場で出会う難しい倫理的ディレンマのケースを、スモール・グループディスカッションで検討します。 成績は、筆記試験の他、ディスカッション時の記録(レポート)等を参考にするので、積極的に活動に参加し発言されることを期待します。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 書名:看護学生のための医療倫理 編著:盛永 審一郎 発行所:丸善 書名:安楽死・尊厳死の現在 最終段階の医療と自己決定 著者:松田純 中公新書</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	<p>書名:在宅医療と介護 ケースで学ぶ倫理と法 著者:松田純ほか編 南山堂 書名:こんなときどうする? 在宅医療と介護 ケースで学ぶ倫理と法 著者:松田純ほか編 南山堂 書名:看護倫理、著者:小西恵美子(編) 南江堂 書名:薬剤師のモラルディレンマ 著者名:松田純 他 南山堂</p>						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅱ	担当者	前田 信吾	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>形態と構造の学問である解剖学(形態学)、機能の学問である生理学(機能学)、2つの領域を合わせて学修する。</p> <p>一見すると解剖学と生理学別々が良いと思われるであろうが、ほとんどの生命体は形と働きの両輪がかみ合って機能している。この授業では、正常な形態と構造、機能を学修する。正常を知ることにより、この授業の先で学ぶであろう病的な状態との違いを任してもらい、看護学の基礎固めとする。</p>						
到 達 目 標	<p>形態機能学Ⅱでは、日常生活を支える生命活動である内部環境に関する恒常性と内臓機能の調節の一部、物質の物流である循環器、栄養の取り込みである消化器の構造と機能をとともに理解し第三者に説明ができるようになる事を学習の到達目標とする。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	テキストの章について	解剖生理学	おもしろく				
	第1回:解剖生理の基礎 総論・組織	第1章	Chapter 2	スライド	配布資料		
	第2回:循環器 1 (心臓の位置・構造と心臓生理)	4-A・B・C・E	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第3回:循環器 2 (血管1:動脈)	4-D・E	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第4回:循環器 3 (血管2:静脈・リンパ管)	4-D・E・F	Chapter 3	スライド	配布資料		
	第5回:循環器 4 (経路・血液・リンパ)	3-C/9-B	Chapter 3・10	スライド	配布資料		
	第6回:ホメオスタシス 1 (体液)	1-C/4-E/5-C	Chapter 7	スライド	配布資料		
	第7回:ホメオスタシス 2 (酸塩基均衡)	5-C	Chapter 7	スライド	配布資料		
	第8回:ホメオスタシス 3 (体温調節)	9-C・D	Chapter 7	スライド	配布資料		
	第9回:消化器 1 (消化管)	2-A・B	Chapter 5	スライド	配布資料		
	第10回:消化器 2 (消化臓器・腹膜)	2-C・D	Chapter 5・7	スライド	配布資料		
	第11回:消化器 3 (生理)	2-B・C	Chapter 5・7	スライド	配布資料		
	第12回:内臓機能 1 (総論)	第6章	Chapter 7	スライド	配布資料		
	第13回:内臓機能 2 (全身の内分泌腺の構造)	6-B・C	Chapter 7	スライド	配布資料		
	第14回:内臓機能 3 (全身の内分泌腺の生理)	6-D・E	Chapter 7	スライド	配布資料		
	第15回:						
成 績 評 価	<p>・方法 最後に行う定期試験(配点は評価配分表を参照)によって評価とする。</p> <p>・基準 多くの問題は事前に配布の問題集(事例集)から出題の予定。 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 テキストである 系統看護学講座「解剖生理学」や「解剖生理をおもしろく学ぶ」の該当分野を読んでくること。事前に配布資料が配布されている場合は、配布資料に目を通すこと。</p> <p>・留意点 形態機能学は生活に密接した学問で、自分のカラダ構造をやる授業と考えてください。初めての用語ばかりで、難しいと感じると思いますが安心してください。周りも皆さんも知らない言葉なのだから。 5分考えて解らない所が出たら s.maeda@kdu.ac.jp に質問する癖を身につけましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学書院 : 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 「解剖生理学」 2. サイオ出版 : 増田 敦子 「解剖生理をおもしろく学ぶ」 3. 配布資料 <p>・必要物品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 「解剖生理学」 ・配布資料 						
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学教育出版 : 竹内 修二「読んでわかる 解剖生理学」 2. 日本医事新報社 : 坂井 建雄 他「カラー図解 人体の正常構造と機能」 3. 医学書院 : 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進「病理学」・「病態生理学」 4. 医学書院 : 横地 千仞 他「カラーアトラス人体 解剖と機能」37 						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 体を守るしくみ	担当者	杉淵 美里	年次	1	間 単 時 位	4/30時間 1単位
学修内容	人体の全身を覆う皮膚・粘膜がどのような構造となっているのか、その役割(機能)について学ぶ。						
到達目標	① 人にとっての皮膚・粘膜の重要性を理解する。 ② 皮膚・粘膜の解剖学的構造を理解する。 ③ 皮膚・粘膜の機能とその仕組みを理解する。						
授業計画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
	1. 外界からの刺激から体を守る「皮膚」・「粘膜」の構造	講義					
	2. 「皮膚」・「粘膜」のもつ働きとその仕組み	講義					
成績評価	・ 方法 筆記試験 形態機能学Ⅲのうち、15点分の配点となります。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義終了後、所感を記入してもらうことがあります。 ② 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	・ テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修: 解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・ 必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 「身体を支える仕組み・ 動かす仕組み」	担当者	吉田 五百枝	年次	1	単位 時間	8/30時間 1単位
学修内容	運動機能とは、単に身体を動かすことだけでなく生命維持のための心臓や肺、コミュニケーションのための目や口、表情、食物を消化吸収することや排泄の機能も其々の筋肉による運動である。このように人間が生きること、生活することに「運動」は欠かすことができないもので、それを支える骨や筋肉、操っている脳神経などを理解することは人間の活動を理解するための重要な学習である。障がいや疾病によって様々な運動機能が障がいされることは、臨床ではしばしば見られる症状である。この障がいや症状を理解した上看護を実践するために、本来の健康な人間の運動のメカニズムを理解することが基本となる。						
到達目標	1) 骨の構造と形成、仕組みについて理解する。 2) 筋の構造と収縮メカニズムについて理解する。 3) 全身を覆い運動を支える骨格筋の構造と仕組みを理解する。 4) 生命活動や生活動作を支える運動のメカニズムについて理解する。						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	第1回 骨の仕組みと動きについて	講義					
	第2回 筋の構造と働きについて	講義 骨の構造と機能の小テストあり					
	第3回 運動のメカニズム(生命動作を支える働き)	講義 筋の構造と名称の小テストあり					
	第4回 運動のメカニズム(生命活動を支える働き)						
成績評価	・方法: 筆記試験(30%) 講義内で実施する小テストは成績には含まれない。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 「骨の構造と名称」「筋の構造と名称」の事前課題資料を使用し学習する。 ・留意点 自分の身体を動かしながら学んでほしい。 視聴覚教材のDVD(生体のしくみ第15・16集)を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能であり個人の復習として活用してほしい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他: 解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(10)運動器 医学書院 菱沼典子:看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 呼吸のしくみ	担当者	朝比奈 結華	年次	1	間 単 時 位	8/30時間 ／1単位
学修内容	呼吸は私たちが起きているときも寝ているときも意識することなく行われている。しかし、呼吸は生きていく上で欠くことのできない生命活動である。日常生活を送るために不可欠な呼吸について、どのような役割を担っているのか、呼吸のしくみ、働きを学んでいく。						
到達目標	① 人にとっての呼吸の大切さがわかる。 ② 呼吸に関わる器官の構造と機能を理解する。 ③ 外呼吸と内呼吸のしくみを理解する。 ④ 酸塩基平衡の調節における呼吸の役割を理解する。 ⑤ 呼吸運動を調節しているしくみを理解し、健康な呼吸を維持していくためのケアを考える。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	呼吸の意義・「息をすう・はく」ための器官の構造		講義			
	第2回	「息をすう・はく」ための器官の機能 呼吸器官の周囲の構造と機能		講義			
	第3回	肺におけるガス交換(外呼吸)細胞におけるガス交換(内呼吸) 呼吸における酸・塩基の調節		講義			
	第4回	呼吸運動 呼吸の調節 健康な呼吸を維持していくためのケア		講義			
成績評価	・ 方法 筆記試験 形態機能学Ⅲのうち、20点の配点となります。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 ② 毎回の講義終了後に、復習プリントを提出していただくことがあります。 						
テキスト・必要物品	・ テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修：解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・ 必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器 医学書院 菱沼典子著「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 「咀嚼と嚥下のしくみ」	担当者	寺岡 智子	年次	1	時単 間位	4/30時間 1単位
学修内容	人間にとって「食べる」ことは、生命の維持や活動していくために必要不可欠なエネルギー源を得ることであり、日常生活行動のひとつである。「食べる」という過程は、食を感じ、食物を口に入れ、食物を噛み砕いて飲み込む。そしてからだの中で消化・吸収するということが行われる。この単元で学ぶ「咀嚼と嚥下のしくみ」は、この食行動における過程のひとつであり、食物を細かく砕き、唾液とよく混合し、食塊を咽頭、食道を経て胃に送り込むことであることを学ぶ。						
到達目標	咀嚼・嚥下が人間にとって必要不可欠である「食べる」、そして消化・吸収へのつながりにおいてどのような機能を担っているかを学んでほしい。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回 講義	咀嚼・嚥下に至るまでの過程について ・食欲とは ・食行動について 食物を噛み砕き(咀嚼)、味わうしくみ			講義			
第2回 講義	飲み込む(嚥下)しくみ 消化・吸収へのつながりについて			講義			
成績評価	方法 筆記試験(15点分) 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	事前課題 留意点 ・自分自身の体について興味を持ち、普段あまり意識することなく行っている「食べる」という行動を意識して学んでいきましょう。 ・授業後は必ず復習を行い知識を理解していきましょう。						
テキスト	・坂井建雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 ・増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 「尿を生成するしくみ」	担当者	増田 瑞枝 福田 健	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	私達は毎日排泄しない日はない。これは体内で産生される老廃物や、過剰な電解質を水に溶解して腎臓が速やかに体外に排泄しているためである。尿を生成することにより、循環する血液の量とその科学的組織は一定に保たれる。本単元では、生命を維持していく上で必要不可欠な体液の恒常性(ホメオスタシス)を保つ生理機能である尿を生成するしくみと排尿するしくみについて学んでいく。排尿するしくみについては自己の体験をふまえ、尿意を感じ、トイレに行くという一連の排泄行動を含めて学んでいく。						
到 達 目 標	(1) 蓄尿、排尿のメカニズムがわかる。 (2) 日常生活での自己の正常な排尿行動を意識することで異常がわかる。 (3) 尿量調節のメカニズムがわかる (糸球体濾過量の調節/尿の濃縮のしくみ) (4) 尿濃縮調整作用、体液量を調節する内分泌機能を理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回	尿はどのように排泄されるのか 蓄尿、排尿のしくみ 尿の通り道/尿意とがまん/尿を出す					講義
	第2回	尿は何故つくられるのか (腎臓の構造と機能) 糸球体と尿細管の組織構造とそのメカニズム (濾過 再吸収 分泌)					講義
	第3回	体液量・血圧を調整する内分泌機能 (レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系・バソプレッシン)					講義
成 績 評 価	・方法 筆記試験 ・基準 形態機能学Ⅲのうち20点分の配点とする						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・留意点 普段の自分の身体や生活行動と排尿の仕組みを結びつけて 興味をもって授業に臨みましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 坂井建雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版						
参 考 文 献	阿部信一ら:系統看護学講座 専門⑫成人看護学(8) 腎・泌尿器 医学書院 竹内修二監修:人体の不思議 西東社 金子大輔:世界一まじめなおしっこ研究所 保育社						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 「外部の情報を取り入れる」	担当者	竹田 直子	年次	1	時間 単位	8/30時間 1単位
学修内容	<p>私たちは、常に外部環境からの刺激をとらえ、適切な反応をすることによって危険から身を守ったり、よりよく生きるために行動しています。この外部の情報を取り入れているのが感覚受容器です。感覚受容器には特殊感覚器でとらえたアナログ情報をデジタル情報に変換する変換機としての機能があります。その感覚器がとらえた情報を神経細胞が正確に脳や脊髄に伝えることによって人はより良く生きていくことができるのです。</p> <p>この単元では外部の情報を取り入れる感覚受容器としての視覚・聴覚・嗅覚・味覚・痛みの仕組みとその機能を学習します。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚受容器の種類・しくみを理解する。 2. 感覚受容器の機能や特徴を理解する。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 眼の仕組みと視覚の機能 なぜ、光や色を感じることができるのか？						講義
	第2回 耳の仕組みと聴覚・平衡覚の機能 なぜ、音を聞き分けることができるのか なぜ、遊園地のコーヒーカップに乗った時平衡感覚が保てるのか？						講義・確認テスト
	第3回 味覚器の仕組みと味覚の機能、嗅覚器の仕組みと機能 なぜ、味覚と嗅覚は生きていくうえで大切なのか？						講義・確認テスト
	第4回 痛みの分類、疼痛のメカニズム 痛みはは私たちに何を教えてくれるのか？						講義・確認テスト
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(25点分) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 解剖学的な部位、名称、生理機能は、課題プリントを使って予習(提出あり) 入学前プログラムでも予習できる ・留意点 自分のからだや普段の生活行動に置き換えて考えると学びやすい 毎時間の最初に、前回分の確認テストを行うので、復習して臨む 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 第1回・第3回 手鏡 						
参考文献	<p>成人看護学[7]脳・神経疾患患者の看護 医学書院 成人看護学[12]皮膚患者の看護 医学書院 成人看護学[13]眼疾患患者の看護 医学書院 成人看護学[14]耳鼻咽喉疾患患者の看護 医学書院 菱沼典子:看護形態機能学 改訂版 生活機能から見るからだ 日本看護協会出版会 読んでわかる解剖生理学 竹内修二 医学教育出版社</p>						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 情報を判断し伝達する	担当者	吉田 五百枝	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	人は外部環境からの刺激をとらえ、適切な反応をして身体の安定を図っている。同時に身体の内部でも刻々と変化する内部環境の状態をとらえ、その変化に反応して恒常性を維持している。体内の環境を一定に保つためには変化をキャッチするしくみ(受容器)と、それに反応するしくみ(効果器)が必要であり、この受容器と効果器をつなぐ通信ネットワークが神経系の役目である。この講義では、人が情報を得て判断し伝えるための機能について学習する。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人が情報を得て判断し伝えるための機能を理解する。 2. 神経系の全体像をとらえ、中枢神経系・末梢神経系の役割を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	1. 神経系の全体像をとらえる						講義
	2. 中枢神経系・末梢神経系の役割						講義(小テストを実施する)
	3. 神経系の障害による症状と生活への影響						講義(小テストを実施する)
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(20%) 第2・3回目の小テストの点数は20%の中に含まれる ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 視聴覚教材のDVD(生体のしくみ第12集)を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である。 個人の復習として活用してほしい。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・坂井建雄他 : 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修 : 解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・香春知永他 : 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論, 医学書院. ・必要物品 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡庭豊: 病気がみえる 脳神経 第1版, メディックメディア. ・熊谷たまき他監修: フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メディックメディア. ・竹村信彦: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7, 医学書院. 						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 「話す・考える」	担当者	朝比奈 結華	年次	1	単位 時間	6/30時間 /1単位
学修内容	<p>私たちの体の組織や器官はお互いに協調し、調和を取りながら、発育(成長)や生命活動をしている。そのために、環境の変化やストレスなどに対応して、常に密接に連携し、安定した状態(恒常性:ホメオスタシス)に保つシステムがある。それが、神経系と内分泌系の2つのシステムである。また、神経は①皮膚など、体の末端でキャッチした(情報)を送る、②送られてきた情報を分析、整理、判断し、これに適応した決定を下す、③決定を実行するように(抹消)に伝える、という3つの役割を担っている。この科目では、脳の中の中樞神経の働きとして、「考える」ことと、運動機能としての「話す」しくみについて学び、人の「話す」「考える」メカニズムについて理解を深める。</p>						
到達目標	<p>1)人にとって「考える」とはどういうことか理解できる。 2)人にとって「話す」とはどういうことか理解できる。</p>						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回 中枢神経の解剖を知ろう			講義・グループワーク			
	第2回 脳の働きを知ろう			講義・グループワーク			
	第3回 睡眠と覚醒, 話すメカニズム			講義・グループワーク			
成績評価	<p>・方法:筆記試験20点の配点(形態機能学Ⅳのうち)</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題 授業前に課題提示された場合は取り組んで参加すること ・留意点 形態機能学Ⅳ「外部の情報を取り入れる」「情報を判断し伝達する」との関連性が高いので、つなげながら学習を深めましょう。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト 坂井建雄他:系統看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学, 医学書院 増田敦子著:解剖生理を面白く学ぶ, サイオ出版</p>						
参考文献	<p>菱沼典子著:看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからさ, 日本看護協会出版会 長谷川泰弘他:日本一カンタン・わかりやすい 脳神経の解剖&疾患ノート 松村譲児:イラストでまなぶ解剖学 田中越郎:イラストでまなぶ生理学</p>						

授 業 概 要

科 目 名	形態機能Ⅳ 「子孫を残す」	担 当 者	増田 瑞枝	年 次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	<p>子孫を残すことは生物が生物たるゆえんである。人間は有性生殖で、男性と女性の2つの性により子孫を残していく。子孫を残すことは人間の本能的な欲求であり、子孫を残すことが続く限り生命は受け継がれていく。また、人間が子どもを産むのは生物として遺伝子を残すという本能だけでなく、家族を迎えるという社会的存在としての意味もあり、極めてプライベートな営みでもある。</p> <p>この単元では、子孫を残すために備わった性の違いを知り、性に関わる器官の構造と機能を学習する。</p>						
到 達 目 標	<p>(1) 男性と女性が子孫を残すための器官の構造と機能を理解する。 (2) 胎児が育つ過程を理解する。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 性別の違い ・遺伝子による違い ・ホルモンによる違い 男性のからだ ・構造(精巣・性管・精囊・前立腺・陰茎) ・機能(精子を作る・精子を送る・ホルモンを分泌する)						講義
	第2回 女性のからだ(1) ・構造(卵巣・卵管・子宮・膣・外陰) ・機能(卵子を作る・ホルモンを分泌する・性周期)						講義 ・ 小テスト
	第3回 女性のからだ(2) ・機能(受精卵を育てる) 胎児期の生殖器の発生						講義 ・ 小テスト
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 20点配点(形態機能学Ⅳのうち) ・取り組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する 途中で行う小テストは評価に含めない</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・留意点</p> <p>自分の身体を知ることが自分の生き方を考えるうえで大切なことです。 関心を持って学んでいきましょう。</p> <p>自分で絵や図をプリントに書いて学んでいきます。 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坂井建夫他著:系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 ・増田敦子監修:解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版 <p>・必要物品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色鉛筆 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・森恵美他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 ・森恵美他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院 ・菱沼典子著:看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ こころの機能	担当者	後藤 治美	年次	1	間 単 時 位	4/30時間 1単位
学修内容	「こころ」の構造を解剖学的な視点・精神医学からの視点で捉え、その働きを学ぶ。さらに、こころの働きと身体との関連について学ぶ。						
到達目標	① 「こころ」とは何かについて考えることができる。 ② 解剖学的に、どこが「こころ」の働きをつかさどっているのか、理解する。 ③ 精神医学的視点で「こころ」の構造を理解する。 ④ 「こころ」の働きと身体との関連を理解する。 ⑤ 「こころ」の健康を保つための人に備わる機能を理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	1. 「こころ」とは何か？			講義			
	2. 「こころ」と身体の関係			講義			
成績評価	・ 方法 筆記試験 形態機能Ⅳのうち、15点分の配点となります。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義終了後、所感を記入してもらうことがあります。 ② 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	・ テキスト ・ 必要物品						
参考文献	・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎, 医学書院.						

授 業 概 要

科目名	生 化 学	担当者	井口 和明	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>生き物は物質でできている。生理学で学ぶからだの様々な現象はからだにある物質が動き化学変化することで成り立っている。栄養素を摂取してからだをつくり、エネルギーとする。不要なものを排出し、からだの恒常性を保つ。これら全てに生体物質がある。からだの物質を学び、覚え、流れを理解することで、健康と病気の原因を物質の目で考える。</p>						
到 達 目 標	<p>生体を構成している物質、その機能や代謝を学び、病態の物質レベルでの理解の基礎を学ぶ。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回：講義 生物とは何か						予習課題 自習課題 ミニテスト 補習課題 夏期課題
	第2回：講義 栄養素の摂取						
	第3回：講義 細胞のエネルギー代謝						
	第4回：講義 糖質代謝						
	第5回：講義 脂質代謝						
	第6回：講義 タンパク質・アミノ酸代謝						
	第7回：講義 代謝調節と疾患						
	第8回：講義 核酸代謝						
	第9回：講義 体液調節						
	第10回：講義 血液、筋肉・骨の代謝						
	第11回：講義 炎症と免疫						
	第12回：講義 神経系の代謝						
	第13回：講義 ライフステージと代謝						
	第14回：講義 疾病と代謝						
	第15回：講義 試験						
成 績 評 価	・方法	筆記試験及び課題。					
	・基	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	高校生物、高校化学の中から、生化学に必要な箇所を自習する。					
	・留意点	自習のための資料を配布する。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	生体の化学(仮)					
	・必要物品						
参 考 文 献	からだのしくみー生理学・分子生物学 [2] 霜田幸雄 他 日本看護協会出版会 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別 編 本田佳子 他 羊土社 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	栄 養 学	担当者	杉本 富士子	年次	1	単 位 時 間	18/30時間 1単位
学 修 内 容	<p>看護は、対象となる人々の日常生活を見守り、援助することにより、そのQOLを高めるための働きかけであるといえる。食生活はこの日常生活の根幹に位置するものであり、その援助にはそれぞれの人に対する細やかな配慮と基本的な知識やスキルが求められる。本講では、その配慮の裏付けとなる栄養学及び具体的な食事の留意点について学習する。</p>						
到 達 目 標	<p>健康の維持・増進に関わる栄養学の基礎的な内容を理解する。 現代の食生活上の問題点を振り返るとともに、各ライフステージにおける食事の留意点を理解する。 面接相談等の場面で対象者の食事状況を把握する際に求められるスキルを身につける。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	<p>(1)健康づくりと食生活</p> <p>第1講 日常生活における食事の役割</p> <p>第2講 栄養状態の評価</p> <p>(2)栄養に関する基礎知識</p> <p>第3、4講 栄養素の種類とはたらき、食事状況の把握演習</p> <p>第5講 日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド</p> <p>(3)ライフステージと栄養</p> <p>第6講 乳児期・幼児期</p> <p>第7講 学童期、青年期、妊娠・授乳期</p> <p>第8講 成人・更年期、高齢期</p> <p>第9講 試験</p>			<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義及び演習</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>試験</p>			
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照）及びレポート</p> <p>・基 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 教科書等の該当部分の予習</p> <p>・留意点 疑問点を拾い出し、授業において確認</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ナーシング・グラフィカ 臨床栄養学 メディカ出版 2020 オールガイド食品成分表 実教出版</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	49						

授 業 概 要

科目名	栄養学(病態)	担当者	吉田 卓矢	年次	1	単位 時間	12/30時間 1単位
学修内容	①臨床栄養学の基礎的な知識を習得する。 ②疾病の治療や予防における栄養食事療法の意義を学ぶ。 ③栄養状態に応じた栄養管理について学習する。						
到達目標	①臨床栄養学の基礎的な知識を習得し、疾病に応じて必要な栄養食事療法を説明できる。 ②栄養状態の評価および栄養状態の改善に必要な栄養管理について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：内分泌・代謝疾患の栄養管理 第2回：循環器系疾患、慢性腎臓病の栄養管理 第3回：消化器系疾患の栄養管理 第4回：周術期の栄養管理 第5・6回：臨床栄養調理実習						
成績評価	・ 方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 事前にテキストを一読しておくことを勧める。 ・ 留意点						
テキスト・必要物品	・ テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち「臨床栄養学」						メディカ出版
参考文献	・ 必要物品						

授 業 概 要

科 目 名	病理学	担 当 者	関 常 司	年 次	1	単 位 時 間	4/15時間 1単位
学 修 内 容	病理学概論について学ぶ。						
到 達 目 標	疾病の概略、用語を理解する。疾病の機序と回復の過程を理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1、2回：講義 ① 病理学とは ② 先天異常と遺伝子異常 ③ 代謝障害 ④ 循環障害						
成 績 評 価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 ①受講前に15分間テキストを読むこと。 ②受講後に5分間ノートを見なおすこと。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	病理学	担当者	平松 毅幸	年次	1	単位 時間	11/15時間 1単位
学修内容	疾患の成立する仕組みのうち、免疫、炎症、感染症、腫瘍に関して講師が説明します。						
到達目標	1) 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2) 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
授業計画	第1回：講義 免疫 第2回：講義 免疫 第3回：講義 炎症・感染症 第4回：講義 感染症 第5回：講義 腫瘍 第6回：講義 腫瘍						
成績評価	・ 方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況、配布プリントの正答率 ・配布プリントを真面目に記入し、提出完了していなければ、筆記試験は受験出来ません。 ・総点数の70%は筆記試験点数。 ・総点数の30%は配布プリントの穴埋め点数。 配布プリントの穴埋めに、漢字間違いがある時や 仮名で置き換えて書いてある時は、間違いとみなします。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。 ② 配布プリントは講義の度に必ず持参すること。忘れても余分はありません。 ③ 配布プリントの空欄の答えを、講義のスライドを見て真面目に記入すること。 各单元(免疫、炎症、感染症、腫瘍)が終了した時に配布プリントは回収し、採点后、筆記試験の前までには、すべて返却します。 ④ 配布プリントの提出が間に合わなかった学生は、提出期限の4日目迄に担任に提出すること。 						
テキスト・必要物品	・ テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 ・ 必要物品						
参考文献	シンプル病理学 休み時間の免疫学(第3版)		南江堂 講談社				

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ (呼吸器系)	担当者	田村 亨治	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学修内容	呼吸器系の一般的疾患について学ぶ。						
到達目標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	感染症（インフルエンザ、肺炎、結核など）		教科書の内容に、各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えて、なるべく新しい知見を紹介する。			
	第2回：講義	気管支喘息、慢性閉塞性疾患、他					
	第3回：講義	間質性肺疾患					
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望：しっかり復習してください。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ (呼吸器系)	担当者	太田 伸一郎	年次	1	単位 時間	2/30時間 1単位
学修内容	肺がん外科治療について学ぶ。						
到達目標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論 I (呼吸器系)	担当者	広瀬 正秀	年次	1	単位 時間	2/30時間 1単位
学修内容	胸部外傷等について学ぶ。						
到達目標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
	第1回: 講義 胸部外傷、気胸、縦隔腫瘍						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ (循環器系)	担当者	渡邊 明規	年次	1	単位 時間	10/30時間 1単位
学修内容	循環器系の解剖・生理、疾患等について学ぶ。						
到達目標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
授業計画	第1～5回：講義 循環器系の解剖・生理 疾患について ①総論から心不全、症候について ②各論 心肺蘇生について						
成績評価	・ 方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点						
テキスト・必要物品	・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ・ 必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論 I (血液)	担当者	前田 明則	年次	1	単位 時間	10/30時間 1単位
学修内容	血液の基礎知識、血液造血器の主要疾患について学ぶ。						
到達目標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	血液概論					
	第2回：講義	赤血球の異常					
	第3回：講義	白血球の異常、造血器腫瘍①					
	第4回：講義	造血器腫瘍②					
	第5回：講義	造血器腫瘍③、出血性疾患					
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 講義はスライドを中心に行います。 あらかじめテキストを読んでから受講して頂くと、さらに理解しやすいと思います。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (歯・口腔)	担当者	森 正次	年次	1	単位 時間	4/30時間 1単位
学修内容	口腔の基礎・解剖をベースに、代表的な口腔外科的疾患、さらに慢性期病棟やがん治療にも欠かせない口腔ケア、口腔機能管理について学ぶ。						
到達目標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義	口腔の基礎、口腔外科的疾患			PC(スライド)及び配布資料		
	第2回: 講義	口腔外科的疾患、口腔ケア(周術期)、口腔機能管理			PC(スライド)及び配布資料		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 授業は主にPCを利用し、プリントを資料として配布します。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [15] 歯:口腔 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (消化器系)	担当者	石原 行雄	年次	1	単位 時間	8/30時間 1単位
学修内容	消化器疾患及び看護について学ぶ。						
到達目標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1・2回: 講義 食道、胃、十二指腸の疾患						
	第3・4回: 講義 腸疾患、腹膜の疾患、ヘルニア、大腸がん						
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 質問をするようにして下さい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (肝疾患・胆道系)	担当者	景岡 正信	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学修内容	肝疾患・胆道系について看護の基本を考えながら学ぶ。						
到達目標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
	第1～3回: 講義 肝・胆・膵の病態と治療のうち、肝疾患・胆道系						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 看護の基本を考えながら受講して下さい。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (膵疾患)	担当者	大島 昭彦	年次	1	単位 時間	2/30時間 1単位
学修内容	膵臓の解剖と生理、代表的膵疾患の病態と治療について学ぶ。						
到達目標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回: 講義 膵臓の解剖、生理、炎症、腫瘍						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 看護とどう結びつか考えながら受講して下さい。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (代謝・内分泌)	担当者	坂本 益雄	年次	1	単位 時間	10/30時間 1単位
学修内容	①代謝・内分泌の基礎知識 ②代謝・内分泌疾患(特に糖尿病を中心)について学ぶ。 ③個々の症例検討について学ぶ。						
到達目標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義	代謝・内分泌の基礎知識					
	第2回: 講義	下垂体・甲状腺疾患					
	第3回: 講義	副甲状腺・副腎疾患					
	第4回: 講義	糖尿病の基礎知識					
	第5回: 講義	糖尿病・症例検討					
成績評価	・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 White Boardを使った講義を少し入れます。配布したプリントへ要点を記入して下さい。						
テキスト・必要物品	・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 ・ 必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (脳・神経系)	担当者	竹原 誠也	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	① 神経系の基本構造と生理学的基礎を理解する。 ② 中枢神経系内での情報処理がどのようになされているかを理解する。 ③ 中枢神経系の疾患により、中枢神経の機能がどのように損なわれるのか理解する。 ④ 神経系疾患で、日常臨床でよく出合う病態を理解する。						
到 達 目 標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義 神経系の解剖と生理			講義形式			
	第2回: 講義 脳血管障害、脳腫瘍			講義形式			
	第3回: 講義 頭部外傷、脊髄疾患、その他			講義形式			
	国家試験をもとに、求められるべき看護師を目指す。			講義内での復習を繰り返して、 理解の度合いを上げる。			
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 テキスト(系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経)を予習しておくこと。 ・ 留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 ・ 必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (自律神経)	担当者	酒井 直樹	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	脳神経内科とはどんな症状かを認め、どんな疾患があるのか、代表的疾患を通して理解する。						
到 達 目 標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義 神経変性疾患Ⅰ（ALS、SCDなど）						
	第2回：講義 神経変性疾患Ⅱ（パーキンソン病、認知症など）						
	第3回：講義 その他（自己免疫性疾患、感染症など）						
成 績 評 価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 神経系の障害によりどのような症状が認められるのか？ 神経内科の疾患にはどのようなものがあるのか？など、おおまかなイメージを作れるように。 知識の整理はテキストでしておくこと。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (腎・泌尿器)	担当者	福田 健	年次	1	単位 時間	10/30時間 1単位
学修内容	腎・泌尿器系の解剖・生理と主要疾患について学ぶ。						
到達目標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	腎・泌尿器系の解剖・生理					
	第2回：講義	腎不全					
	第3回：講義	腎不全					
	第4回：講義	尿路腫瘍					
	第5回：講義	尿路感染症、尿路結石症 まとめ					
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望：遠慮なく質問、ご要望をお寄せください。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (運動器:骨・筋)	担当者	徳山 周	年次	1	単位 時間	8/30時間 1単位
学 修 内 容	① 筋骨格系の運動機能・基本構造を理解する。 ② 関節運動の理論と実践を学ぶ。						
到 達 目 標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1～4回: 講義 ・筋骨格系の基本を理解する。 ・運動器における専門用語を理解し、使えるようになる。 ・整形外科、リハビリテーション学の内容理解。						
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 ・ 留意点 受講生への要望: 積極的に授業に参加してほしいです。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 ・ 必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (乳房)	担当者	平松 毅幸	年次	1	単位 時間	4/30時間 1単位
学修内容	乳腺の解剖・生理学的事項と乳腺疾患(特に、乳癌)について、その病態、診断、治療法について講師が説明します。						
到達目標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。この内、この单元では、乳腺の疾患(特に、乳癌)の発生機序、疫学、治療法を理解し、患者におよその説明が出来るようになる。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回: 講義 乳腺の解剖・生理と乳腺の良性疾患						
	第2回: 講義 乳がんの診断と治療法						
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。 ② 乳癌の治療法に関しては、全ての固形癌に当てはまるため、全身療法と局所療法に分けて、各々の意義をしっかりと理解してください。 ③ 病理学の「腫瘍・免疫」等で学んだことを思い出して、今回得た知識を、それに連結するように頭の中で整理してください。 ④ 乳癌患者のつらさを共感して、適切なケアが出来るようになるには、どうすべきか考えて、講義を受けてください。 						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (女性生殖器)	担当者	黒田 健治	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	① 女性生殖器系(乳房を除く)の解剖生理を理解する。 ② 女性生殖器(乳房を除く)の主な疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回: 講義	症状とその病態生理及び婦人科検査					
	第2回: 講義	女性ホルモン周期とその関連疾患					
	第3回: 講義	婦人科良性疾患					
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況、取り組み姿勢					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学					医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (免疫系)	担当者	金本 素子	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学修内容	免疫の基礎と膠原病、リュウマチ疾患について学ぶ。						
到達目標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ	方法（形成評価等を含む）					
	第1～3回：講義 前半：免疫学総論 後半：免疫学各論(疾患について)						
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望：この授業を通して、リュウマチ疾患に対しておおまかなイメージと興味が持てるようになることを望みます。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (感覚器系:眼)	担当者	松永 寛美	年次	1	単位 時間	4/30時間 1単位
学修内容	眼科疾患と治療について学ぶ。						
到達目標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1、2回:講義 眼科疾患と治療について						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 自主的に予習・復習することを望みます。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 イラスト眼科 渡邊郁緒 著 文光堂 眼科学 丸尾敏夫ほか 著 文光堂 70 						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (耳鼻咽喉)	担当者	安原 智洋	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学修内容	耳鼻咽喉科領域の検査および疾患の病態・治療法について学ぶ。						
到達目標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義 総論 耳疾患						
	第2回：講義 鼻疾患						
	第3回：講義 咽頭および咽頭疾患 まとめ						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 図や写真を多く用いるので、目で見えて授業を理解しましょう。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (皮膚)	担当者	矢田 貝 剛	年次	1	単 位 時 間	4/30時間 1単位
学 修 内 容	皮膚のしくみと皮膚疾患について学ぶ。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回: 講義 皮膚のしくみ、発疹学について						
	第2回: 講義 皮膚疾患について						
成 績 評 価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望: わからないところは質問して下さい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (手術療法)	担当者	高林 直記	年次	1	単位 時間	6/30時間 1単位
学修内容	① 手術療法についての知識を得る。 ② 代表的な手術術式、創傷治癒や、術後の一般的な経過についての知識を得る。 ③ 術後合併症についての知識と理解を得る。						
到達目標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。 また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義 手術療法とは						
	第2回: 講義 手術療法の実際						
	第3回: 講義 術後合併症						
成績評価	・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 受講生への要望: 単に手術というだけでなく、術前管理、手術、術後管理という一連の流れを学んで下さい。						
テキスト・必要物品	・ テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ・ 必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科 目 名	病態生理治療論Ⅴ (リハビリテーション療法)	担 当 者	秋山 弘太 遠藤 みき 佐貫 恵	年 次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	<p>【理学療法】 ① リハビリテーションとは何かを理解する。また、リハビリテーション看護活動が患者に与える影響を理解する。 ② 理学療法とは何か、評価・治療を通して経験する。</p> <p>【言語療法】 言語聴覚療法(リハビリテーション)について学ぶ。</p> <p>【作業療法】 作業療法について学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<p>人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	<p>【理学療法】 第1回: 講義 リハビリテーション概論 第2回: 講義・実習 理学療法 ① (評価・測定) 第3回: 講義・実技 理学療法 ② (治療)</p> <p>【言語療法】 ① 嚥下リハビリと小児の言語リハビリ ② 聴覚療法と成人の言語リハビリ・高次脳機能障害のリハビリ</p> <p>【作業療法】 その人らしい生活の再構築を行うリハビリ</p>						
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	【理学療法】 第2・3回講義は実技中心にて、服装は動きやすい恰好で。 【言語療法】 分からないことは積極的に質問して下さい。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	成人看護学 D. リハビリテーション患者の看護 [第2版]					氏家幸子 廣川書店
	・必要物品	【理学療法】 動きやすい服装 【作業療法】 カーディガン。ジャージも可。					
参 考 文 献	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 絵でわかる言語障害 毛束 真知子 学研</p>						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (化学療法)	担当者	遠藤 友香	年次	1	単位 時間	4/30時間 1単位
学修内容	「がん」と「がん化学療法」について学ぶ。						
到達目標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義 がんについての正しい知識						
	第2回: 講義 がん化学療法の基礎知識						
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望: わからない事があったら、質問をして下さい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (放射線療法)	担当者	五十嵐 達也 小杉 崇	年次	1	単位 時間	4/30時間 1単位
学修内容	放射線医学の基礎と臨床(画像診断、IVR、放射線治療)について学ぶ。						
到達目標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回:講義 放射線診断について						
	第2回:講義 放射線治療について						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (心身医学)	担当者	福島 一成	年次	1	単位 時間	4/30時間 1単位
学修内容	心身医学の概論。心と体の関係を概観する。						
到達目標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回:講義 心身医学概論 ① 心身医学とは						
	第2回:講義 心身医学概論 ② 心身症の発症機序と代表的な心身症						
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 授業は2回とも教室で行う。出欠も成績評価の参考とする。						
テキスト・必要物品	・テキスト 使用しません。 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	薬理学	担当者	中島 重紀	年次	1	単位 時間	8/30時間 1単位
学修内容	医薬品の作用原理とその影響について基本的知識を習得し、臨床で必要な医薬品の安全な取り扱いについて学ぶ。						
到達目標	医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因を理解する。 医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	医薬品概論		パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する。			
	第2回：講義	がん、痛みに使用する薬 他		パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する。			
	第3回：講義	救急救命時に使用する薬 他		パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する。			
	第4回：講義	特に安全管理が必要な医薬品について 他		パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する。			
成績評価	・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 授業前にテキストの該当箇所を読んでおく。 ・ 留意点 授業後は講義内容を振り返り、重要な語句を整理しておく。						
テキスト・必要物品	・ テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 イメージできる臨床薬理学			メディカ出版 メディカ出版			
参考文献							

授 業 概 要

科目名	薬理学	担当者	石川 智久	年次	1	単位 時間	22/30時間 1単位
学修内容	<p>薬理学は、人体における薬物の効果に関する科学研究を行う学問である。総論では、薬の作用や体内動態、からだと薬の反応関係など薬物療法の基礎知識を学ぶ。各論では、各疾患の治療に用いられる医薬品の薬効、体内動態、作用機序、副作用などについて学ぶ。</p>						
到達目標	<p>患者に投与する薬に関する十分な知識と服用の効果を正しく評価できるようになるために、本授業では、薬と生体の両面にわたる、分子レベル、細胞レベル、組織レベル、個体レベルの基礎的な知識をもとに、薬と受容体の反応様式および薬の作用機序についての知識を身につけ、薬がどのようにして疾患に効くのかを理解することを目標とする。</p>						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1－3回	主な生活習慣病に使用する薬		講義 問題集を使った演習			
	第4－5回	脳・中枢神経系疾患で使用する薬					
	第6回	感染症に使用する薬					
	第7回	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬					
	第8回	消化器系疾患に使用する薬					
	第9－10回	その他の症状に使用する薬					
	第11回	試験					
成績評価	<p>・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照）</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 授業では、暗記ではなく理解が必要な薬の作用メカニズムを中心に解説する。できる限り授業中に理解するように努め、分からない点は積極的に質問するように。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 イメージできる臨床薬理学</p> <p>・必要物品</p>						メディカ出版 メディカ出版
参考文献							

授 業 概 要

科目名	微生物学	担当者	内藤 博敬	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	<p>微生物(細菌、ウイルス、真菌、寄生虫)の分類、微細構造・形態学的特徴、生物学的特徴、生化学的性状、増殖、感染について解説する。様々な病原微生物が、どのような感染症を引き起こすのかについて概説する。さらに、感染防御、感染防御免疫について解説する。</p> <p>感染症の原因となる病原微生物を意識しながら、基礎となる『微生物学』を学習する。各種微生物の基礎を把握し、他の関連する講義や実習の礎とするとともに、実際の看護現場における感染症の予防及び治療などの感染症対策に関して興味を持つことで、責任ある役割を担う。</p>						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の種類毎の特徴について説明できる。 2. 感染防御機構について説明できる。 3. 日本の感染症対策およびその問題点について認識し、以降の科目へ繋げることができる。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	1. 微生物学概論						座学(講義)
	2. 微生物と微生物学						座学(講義)
	3. 細菌(構造と分類)						座学(講義)
	4. 細菌(培養環境と栄養、常在細菌叢)						座学(講義)
	5. 真菌、原虫および蠕虫						座学(講義)
	6. 原虫および蠕虫						座学(講義)
	7. ウイルス						座学(講義)
	8. 感染と感染症						座学(講義)
	9. 生体防御と免疫(自然免疫)						座学(講義)
	10. 生体防御と免疫(獲得免疫)						座学(講義)
	11. 感染経路と感染症						座学(講義)
	12. 感染症の予防						座学(講義)
	13. 感染症の検査と治療						座学(講義)
	14. 感染症の現状と対策						座学(講義)
	15. まとめ(リスクの考え方)						座学(講義)
成 績 評 価	・方法	期末試験およびレポート、ミニテストの総合評価とする。					
	・基準	なお、遅刻・欠席は授業態度の減点要素とする。 本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	「看護師を目指す者が、なぜ微生物学を学ぶのか？」自問しておく(初回の講義で質問する)。					
	・留意点	講義中に写真や動画を使いますが、中には刺激の強い内容もあります。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物医学書院					
	・必要物品	テキスト、筆記用具、各回に配布するプリント					
参 考 文 献	<p>からだをまもる免疫のふしぎ: 日本免疫学会; 羊土社 はじめの一步のイラスト感染症・微生物学; 羊土社 わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫; 藤本秀士編著 南山堂</p>						